

ヤコブの手紙 2 章 1-13 節 「えこひいきしない」

ヤコブは 1 章で、「私の愛する兄弟たち」に対して、さまざまな試練に会うとき、それをこの上もない喜びと思いなさいと勧めました。大切なのは、真理の御言葉を聞くだけでなく、それを実行することです。その御言葉の実践の一つとして勧められているのが、「人をえこひいきしてはいけない」ということです。「えこひいきする」とは、新共同訳聖書では「分け隔てしてはなりません」とあります。人を差別してはいけない、偏見を抱いたり、えこひいきしてはいけないということです。いったいなぜ人をえこひいきしてはいけないのでしょうか。ヤコブは今日の箇所ですの三つの理由を述べています。

第一の理由は、私たちは主イエスを信じる信仰を持っているからです。1 節でヤコブは、主イエス・キリストのことを「栄光に満ちたわたしたちの主イエス・キリスト」と言っています。神の栄光は、神の幕屋に宿り(出エジプト 40:34-38)、地上に生まれた主イエスに宿りました(ヨハネ 1:14)。そして今日、彼を信じるすべての人に神の御霊が注がれたことによって、彼を信じるすべてのクリスチャンにこの神の栄光が宿るようになりました(I コリント 6:19-20)。クリスチャンとはそのような者なのです。私たちはこの主イエス・キリストを信じる信仰によって、神の栄光を持つ者となったのです。であれば、もはや人の栄光とか、富の栄光といったものは色あせてしまいます。立派な服装であるとか、指輪の有無を含めてどんな指輪をしているか、お金持ちであるかどうかといったことはどうでもいいことであり、そういうことで人を差別してはいけないのです。えこひいきしてしまうということは、神さま以外に神を造り出してしまっているということです。そうではなく、ただイエス・キリストを信じて行動しなさい、と伝えているのです。

第二の理由は、この世の貧しい人たちを神が選んでくださったということです。神さまがこの世の貧しい人たちを選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束された御国を相続する者とされたからです。山上の説教でも「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。」(マタイ 5:3)とあります。イエスさまの目は絶えず貧しい人たちに注がれていたのです。それは、富んでいる人はどうでもいいということではなく、貧しければ貧しいほど、信仰による豊かさを求めるからです。

第三の理由は、そのように人をえこひいきすることは、神の律法にかなっていないということです。律法のすべては、神を愛することと、隣人を愛するという二つです。もし人をえこひいきするということがあれば、この律法に違反することになります。

イエスさまは、ご自身が私たちを愛されたように、私たちも互いに愛し合うことを願っておられます。さまざまな人種差別や偏見は、何千年もの間、人類の疫病として存在してきましたが、このままではいけないのです。私たちはキリスト・イエスにあって一つとされたのですから、そうした偏見や差別を捨て、一つとなることを求めていきたいと願います。